

1 新学習指導要領では

現行と比べ、来年度の移行期間から週1時間増、H23年度からは低学年は週2時間増、中・高学年は週1時間増

2 新学習指導要領と現在の状況から留意してほしいこと

(1) 子供の自主性を尊重するあまり、教師が指導を躊躇しているのでは・・・

討議の際、「どのような支援がよかったのか」という質問があるが、本来は「どのように指導すべきか」がまず、大切ではないか。指導上留意することは何かが抜け落ちている。

(2) 発想の転換が必要である。

全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙の結果から、国語の成績はよいが国語の学習に対する意識が低い。国語学習に対する意欲を育てる必要がある。

そのために、国語科学習を異学年で組んでみる、教科間の関連を図る等、発想の転換が必要である。

(3) 学習指導要領をふまえた学び合い

現在、学習の中で、学び合いが多く取り入れられている。学び合いの中で、「だれから何を学んだか、だれが自分から何を学んだ。」を捉える必要があるのではないか。そこで、学習を振り返る力や、相手の話を聞く力が身に付くと考えられる。

(4) 学習環境の工夫

読書環境は充実している。しかし、外国では担任が本を1冊読んでやり、それについて話し合うことも行われている。

教員が子供達に紹介できる本を多く持つことや、読書に関わる掲示等の環境整備に取り組んでほしい。

3 小学生における問題行動の低年齢化、インターネット、携帯電話等によるいじめ等、新たな問題が発生している。学習指導要領改訂の趣旨をふまえて9月からの対応を考えてほしい。